

BNCT（ホウ素中性子捕捉療法）実用化推進と拠点形成に向けた検討会議

1. 本会議の趣旨・目的

- ・ BNCTは、次世代のがん治療法の一つとして期待されているとともに、昨年、国の健康・医療戦略等にも位置づけられ、最近、各方面において関心が高まっている。しかしながら、まだ研究課題の多い医療技術であることや、現時点では対象患者が限られており、装置導入ですぐに採算のとれるものでないことが理解されていない。
- ・ 関西では世界初の治験が開始されるなど実用化フェイズに近づいているものの、さらなる研究開発や専門人材の育成などが急がれる。
- ・ 一方で、難治性がんの患者等からはいち早い治療実施を望む声もあり、将来の実用化を見据えた治療施設のあり方についても、機能、施設、経営等の面から課題の洗い出しと対応策等の検討も必要である。

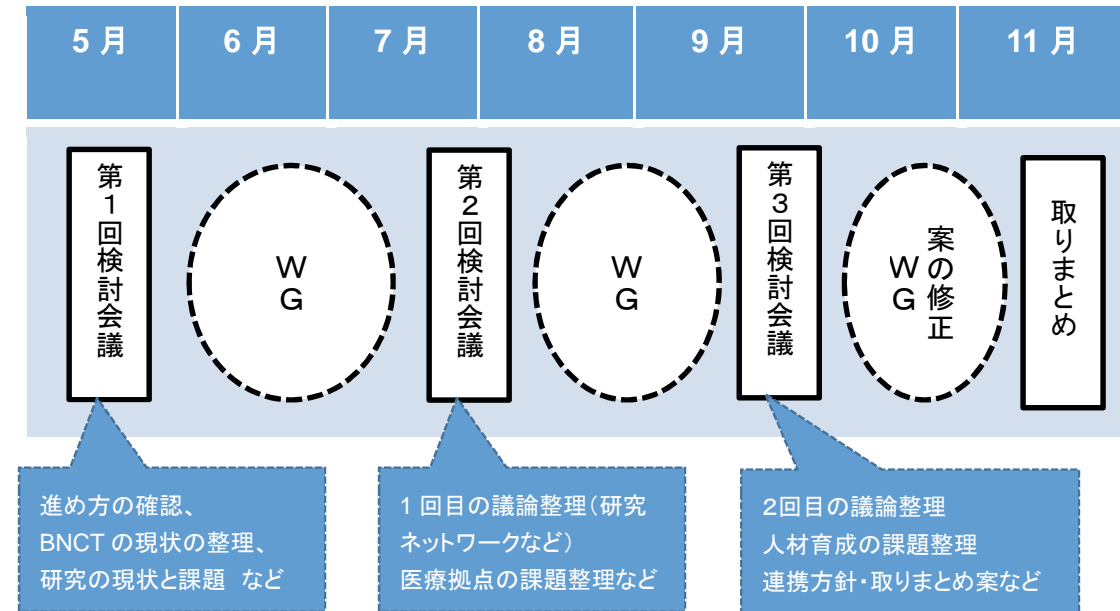
本検討会においては、BNCTの着実な実用化を図るとともに、我が国が世界をリードする国際的な地位を確立できるように具体的な方向性を示す

- ・ 具体的には、数年先の実用化に必要な開発とともに、さらに世界が10年は追いつけない次の世代をリードする加速器中性子源の研究開発、がん細胞に効果的に集積する薬剤や診断のための薬剤の研究開発、さらには研究や医療現場の担い手となる人材の育成など、取り組むべき課題とその対応について関係機関、関係者で課題の共有化を図る。
- ・ また、将来BNCTを実施しようとする機関が、より安全・確実に医療実施をできる体制を作り出すために必要な事項を明らかにし、取組の指針として活用できるようにする。

2. 本会議での検討事項

1. ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の現状
2. BNCTの研究開発の現状と課題
3. 医療拠点（5年後の実用化に向けて）
4. 人材育成
5. 研究拠点と医療拠点の連携・共同
6. 具体化に向けた今後の体制・スケジュールなど

3. 会議スケジュール



4. 検討会議委員（敬称略）

	団体	氏名
大学	京都大学	平岡 真寛（医学研究科教授）
	京都大学原子炉実験所	高橋 千太郎（副所長）
	大阪大学	金田 安史（医学系研究科長・医学部長）
	大阪大学	小川 和彦（医学系研究科教授）
	大阪府立大学	辻 洋（理事・副学長）
	大阪医科大学	大槻 勝紀（理事・教授）
学会等	日本中性子捕捉療法学会	平塚 純一（会長・川崎医科大学教授）
	日本放射線腫瘍学会	西村 恭昌（理事長・近畿大学医学部教授）
	大阪府立成人病センター	手島 昭樹（放射線治療科主任部長）
	国立がん研究センター	伊丹 純（放射線治療科長）
研究者	京都大学原子炉実験所	小野 公二（京都大学名誉教授・客員教授）
	大阪大学	畑澤 順（医学系研究科教授）
	大阪府立大学	切畑 光統（特認教授）
行政	近畿経済産業局	岡村 敦子（地域経済部次長）
	大阪府	北野 義幸（特区推進監）
	熊取町	清水 正弘（副町長）

- ・ 構想の具体的な案を検討するためのワーキングを下部機関として設置
- ・ 事務局は京都大学原子炉実験所、大阪府、熊取町の共同設置